

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第19号（チャのカンザワハダニ）について（送付）

チャのカンザワハダニの発生が前年秋から多く推移しています。ほ場での発生状況を把握し、発生初期の春期基幹防除に努めてください。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和3年度技術情報第19号

1 対象病害虫 カンザワハダニ

2 対象作物 チャ

3 発生状況等

(1) 前年10月から発生ほ場率が高く推移しており、1月中旬に行った巡回調査では、発生ほ場率が59%（平年29%）、寄生葉率が2.7%（平年1.2%）と、いずれも平年より高かった（図1）。

(2) 同調査では、発生程度が中発生のは場も認められた（表1）。

4 防除対策

(1) 春期基幹防除は、平均気温が10℃を超える頃を目安に行う。

(2) 平均気温が10℃を超えると産卵・増殖が盛んとなり寄生密度が急増するので、ほ場での発生状況を把握し、発生初期の春期基幹防除に努める。

(3) 防除後も発生が多い場合は、一番茶の被害を避けるため、萌芽前に補完防除を行う。

(4) 薬剤は、葉裏や裾部に薬液が十分かかるように散布する。

5 参考データ

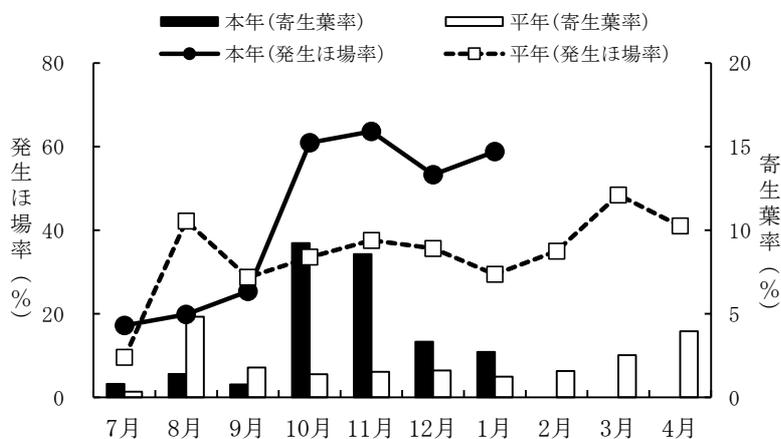


図1 カンザワハダニの発生ほ場率と寄生葉率の推移

表1 カンザワハダニの1月中旬の程度別発生ほ場数

地域	ほ場数	発生程度				
		甚	多	中	少	無
南薩	17		1	11	5	
北薩	10		2	3	5	
大隅	8			3	5	
計	35	0	0	3	17	15

注1) 20地点35ほ場を1月11～19日に調査。

注2) 発生程度 甚：寄生葉率71%以上
 多： " 31～70%
 中： " 11～30%
 少： " 1～10%